

No. 747

夏をよぶ

204頁

—東京・三重—

5月5日、東京では江戸三大祭りの一つ神田まつりが、江戸っ子の心意気を示そうと威勢よく行なわれました。今年は三年ぶりにほうれん行列を復活。

年々下火になる東京のまつりを盛上げようと土地っ子たちは大はりきりでした。

一方、三重県桑名の多度神社では恒例の上げ馬神事が、5月4日、5日の二日間にわたって行なわれました。

この祭りは戦国の昔から伝わるもので、6人の豆騎手が陣笠裃姿で3メートルの絶壁を豪快に駆け上ります。この行事が終ると間もなくこの地方にいよいよ本格的な夏が訪れるのです。

公害防止へ第一歩

132頁

—東京—

公害がゆゆしい社会問題であるにもかかわらず、その対策は積極的にはなされなかった。

住民の苦情にただ手をこまねくだけでなく、一歩でも公害防止に乗りだそうと5月6日から東京都では、排気ガス、ばい煙、騒音等を取締まる公害パトカーがスタート、翌7日には都公害研究所が羽田空港での騒音調査を開始しました。

問題の複雑さに頭をかかえる前にまず公害防止へ第一歩を踏みだしたのです。

北野に栄冠

266頁

—日本グランプリ—

1968年度日本グランプリレースが、5月3日約11万の観衆を集めて、静岡県富士スピードウェイで開催されました。

グランプリレースは、一周6キロのコースを80周、約二時間半走り続ける激しいレースです。今回は、翼つきのニッサン R381 をトヨタが技術の総力をあけて開発したトヨタ7との対決が注目の的。

レースは、ニッサンチームが、トップグループを守り、20周目から北野が先頭になったまま、2位生沢のボルシェカレラを一周以上離してゴールイン初の栄冠となりました。